

1 実態把握の見通しをもとう

実態把握の時期に応じて、その目的や内容が異なる。そこで、時期に応じた把握の方法を工夫、選択し、把握したことを指導に効果的に反映できるようにする。

【時期に応じた実態把握の目的、内容、方法の例】

時期	目的	内 容	方 法
学習前	・指導計画の作成 ・手立ての立案	＜診断的評価＞ ・既習事項の定着、意欲や経験の有無等から把握	・診断的評価のための事前調査の実施 ・これまでの活動の様子の分析 ・誤答分析 ・集団と個の両面からの把握
学習中	・目標の達成状況の把握 ・指導と評価の一体化	＜形成的評価＞ ・具体的評価規準(B基準)を基にした評価	・形成的評価のための小テストの実施 ・表情や行動の観察 ・資料の活用状況やノートの記述の観察 ・丸つけによる評価や励ましなどの声かけ ・実技テストの実施 ・挙手や列指名による確認
学習後	・学び方の改善 ・指導の改善	＜総括的評価＞ ・観点別の評価と達成状況の把握 ・単元全体を通じた児童生徒の変容の把握	・総括的評価のための総合問題の実施 ・レポートや作品の観察 ・口頭試問や質疑応答の実施 ・児童生徒の自己評価、相互評価の実施と整理 ・新たな課題への取組状況の観察

2 学習前に実態を把握しよう

学習前の実態調査は、具体的な指導計画の作成や手立ての立案に生かす。

【学習前の実態把握の手順 例（小5 算数）】

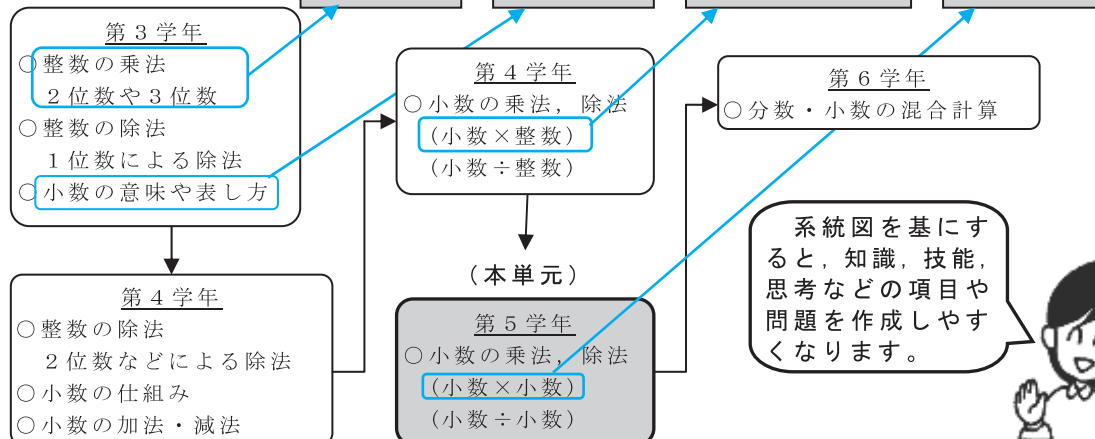
事前調査の観点の設定と問題の作成

- (1) 既習事項の定着度や意欲、生活経験、重点課題とのかかわり、未習事項についての知識、理解、技能、関心等について観点を設定する。
- (2) 学習指導要領や単元の系統性をもとに、次ページの①～⑤のような問題を作成する。

小学校学習指導要領 第3節 算数 [第5学年] 2 内容

- (3) 小数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらを用いることができるようにする。
- ア 乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。
- イ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、余りの……。
- ウ 小数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解……。

[A 数と計算]



事前調査の分析とまとめ

(3) 分析は、「集団の傾向」と「個の状況」とを区別して行う。主に、前者は指導計画作成の際に、後者は個々への指導の手立てを考える際に生かすようにする。

〔集団の傾向の把握と分析〕

観点	本単元にかかわる内容	問 題	正答率	誤答例・分析
既習事項	① 2位数×2位数の乗法ができる	67×34 の計算をしなさい	〇〇%	・繰り上がりの計算を誤る(5人) ※繰り上がりの数を書かずに誤る(3人) ※繰り上がりの数を書いたが、… ・一斉指導で計算の手順を確認し、…
	② 小数のしくみが分かる	1.26は、0.01を何こ集めた数ですか	〇〇%	・…
	③ 小数×整数ができる	7.3×6 の計算をしなさい	〇〇%	・…
説明する力(言語活動)	④ 計算の考え方を説明できる	7.3×6 の計算の仕方を説明しなさい ・0.1を基にして73×6を計算する仕方 ・7×6と0.3×6を分けて計算する仕方 ・7.3を6回たす仕方 ・タイル図などを用いて説明 ・無答	〇〇% 〇〇% 〇〇% 〇〇% 〇〇%	・0.1を基にした児童が多いたが… ・0.1を単位とした見方をもう一度… ・無答の児童に対しては、…
未習事項	⑤ 小数×小数ができる	2.3×0.4の計算をしなさい	〇〇%	・未習であるがすでに…
		3.7×1.7 の計算をしなさい	〇〇%	・…
関心・意欲	教科の学習に対する意欲	算数の勉強は好きですか はい いいえ どちらともいえない	…	・好きと答えた児童が多いが、…
	未習に対する興味関心	～ をしてみたいですか はい いいえ どちらともいえない	…	・…
経験	生活経験の…	～をしたことがありますか はい いいえ	…	・～の経験者が予想よりも多く、…

誤答の傾向や原因を探り、指導方針や学習形態などを考えましょう。

重点課題への取組として、既習事項を使って説明できるようにする手立てを考えましょう。

〔個の状況の把握と分析〕

	観 点	実 態				個への配慮事項	評価や変容			
		既習事項								
	氏 名	① しくみのみ	② $\times 2$ 位数	③ 小数 $\times$ 整数						
1	幕張 良子	○	○	○	○					
2	若葉 健太	○	○	○	○	集中を欠くことが多いので、解き終わった後に予備の問題を用意し…				
38	千葉 菜々	○	$\times$	○	$\times$	筆算での繰り上がりを…				

実態や加え、評価欄を設けておく効果と役立ちま

調査結果と日頃の様子を基にして、特に配慮が必要な児童生徒を把握し、具体的な手立てを考えましょう。

実態や配慮事項に加え、評価や変容の欄を設けて一覧表にしておくと、指導の効果をとらえるのに役立ちます。



(4) 調査の結果は、必要に応じて一覧表や座席表などにまとめる。

3 学習中の実態を把握しよう

具体の評価規準（B基準）を基に学習中の実態を把握し、指導の手立てと一体化させていくことが大切である。

（１）具体の評価規準（B基準）を基に評価しよう

1 単位時間の中のどの場面でどのように評価し支援するのか、を明らかにしておく。その際、「関心・意欲・態度」の実態は、授業以外の要因によっても変化しやすいので、評価を多面的、継続的に行うようにする。

【「表現の能力」の評価 例（英語）】

評価規準 ○買い物場面を想定して How many～？ How much～？を使った問答ができる。
（表現） ○1000 以下の数字を英語ではっきり言うことができる。

学習内容と活動	支援(◎), 評価(☆)
グループで活動する 小道具を用いて、店員や客の役を交代しながら行う。	- 列ごとに3人のグループを作らせ、活動させる。(T1) ☆How many～？ How much～？に対して数詞を用いて答えることができたか。 <T1, T2で発表内容の観察> ◎答えられない生徒に対しては、教師が先に発音を示し…

本時は「表現の能力」の観点を中心に評価することにしました。

B基準を基にして、ほめたり助言したりしながら、達成状況を評価します。

T1とT2で分担を決めておき、全生徒の評価と指導ができるようにします。



【「関心・意欲・態度」の自己・相互評価 例（英語）】

Class 2 Name 千葉菜々		◎:よくできた ○:できた △:あと一歩											
評価項目	メンバー	自 分			幕張良子			若葉健太					
	時	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
相手の英語をしっかりと聞こうとしたか		◎	◎		◎	◎		○	○				
自分のセリフをしっかりと言おうとしたか		○	○		◎	○		○	◎				
小道具などを用いてその場に応じた動作をしようとしたか			△			○			△				
感想・意見		..	..										

【記入方法】 ①自分の評価を記入
②メンバーが評価を記入
③感想・意見を記入

自己評価や相互評価なども取り入れ、多面的な評価を心がけましょう。



（２）評価結果を児童生徒にフィードバックしよう

活動中に評価を基にした指導・助言をすることで、学習効果が上がり自信をもって意欲的に学習に取り組めるようになる。

【授業中のフィードバックの例】

- 口頭ではめる、励ます。
- 机間指導中にノートなどに朱で波線や丸をつける。
- ノート作業や小グループでの話し合いなどでつまづきを発見して、ヒントや助言を与える。
- 振り返りカードなどに朱でコメントなどを書く。
- 自己評価、相互評価で振り返りをさせる。

評価規準をあらかじめ示しておくと、児童生徒がめあてを意識するようになります。取組が主体的になります。



(3) 評価結果を記録しよう

評価結果が累積されることにより、集団や個々の変化が把握できる。状況に応じて、その場で記録したり授業後にまとめて記録したりして、評価結果の累積をしていく。

結果を記録することは、個々への指導を見直したり、指導の偏りや漏れを防止したりする意味もあります。



【評価結果の記録 例（英語）】

観 点		関心・意欲・態度			表現の能力			
時		1	2	3	1	2	3	4
B 基準	動作を伴った発表をしようとする。	自分のセリフをはっきり言おうとする。	..	..	..	..	How many～？	Whose～？
					..	..	How much～？	とその応答文を..
氏 名							数詞を用いて、適切に答えることができる。	
幕張 良子	○	○	○				○	○
若葉 健太	○	○			○	○	○	
....		○	○		○	○	△	△

[A:○ B:無印 C:△]

4 学習後に実態を把握しよう

学習後には観点別目標の達成状況や単元全体を通じた児童生徒の変容を明らかにする。その状況に応じて、補充的な学習や発展的な学習を行ったり、その後の指導計画づくりに生かしたりする。また、保護者への説明の資料としても活用できる。

(1) 各観点をバランス良く把握しよう

評価の内容が、数値でとらえやすい「知識・理解」などの観点到に偏りすぎないように配慮し、数値としてとらえづらい「思考・判断」や「関心・意欲・態度」などの観点到についても評価方法を工夫する必要がある。

【「思考・判断」の評価問題のつくり方 例（中3 社会）】

作成の留意点	評価問題	観点別評価規準
○ 学んだ知識を使って考えさせる。 ○ 実験結果、グラフ、資料などの事実を示して考えさせる。 ○ 解答は記述式で、考えた過程や理由を書かせる。 ○ B 基準に基づいた模範解答を考えておく。	組 氏名 【問題】 下の資料を参考にして、「少子高齢化が進むと社会保障の面でどのような影響があるか。」を説明しなさい。 【解答欄】	「社会的な思考・判断」 国民生活と福祉 少子高齢化社会など現代社会の特色を踏まえ、財政の面に関して、限られた財源の望ましい配分について多面的・多角的に考察している。 全国学力・学習状況調査のB問題のつくり方も参考になります。

(2) 複数の評価方法を組み合わせて把握しよう

評価の内容により、実技テスト、レポート作成、観察や面接等の方法も取り入れる必要がある。また、それらを組み合わせて多角的に評価することで、児童生徒の変容もより明らかになる。

1 授業を見直そう

授業力の向上を図るために、日ごろから授業実践を振り返って改善していくことが大切である。

(1) 授業改善の流れをとらえよう

授業改善をするためには、児童生徒の変容と指導との関連を考察し、指導の成果と課題を明らかにしなくてはならない。そして、有効な指導方法を次に生かし、より良い授業としていくことが授業改善である。

改善の流れを、国語を例にして、考えてみました。



【授業改善の流れ】

授業実践

- 学習前，学習中，学習後の実態
- 指導の記録
- 活動の記録 など

【例（国語）】

- ・評価記録 ・ノートの記述
- ・学習感想 ・書き込みをした指導案

変容をとらえる

- 観点別目標の達成度
- 発言内容
- ノート，作品，レポート，実技，資料の活用状況
- 新たな課題への取組状況
- 自己評価，相互評価
- 関心，意欲，態度
- アンケート結果の比較

- 具体的評価規準に対する達成度は，それぞれ ～ であった。
- 教科書をすらすら読めるようになってきた。
- 文章を根拠にして自分の考えを説明することが十分できていない。
- 誤字や脱字が多い。

変容と指導との関連を考える

- 効果があった指導は何か。
- 効果が上がらなかった指導は何か。
- 教材・教具は有効であったか。
- 指導過程は適切であったか。
- 指導形態とのかかわりはどうか。

- 音読や群読の指導が有効であった。
- 文型を示した指導をすると良いのではないか。
- 中心語句や中心文を探させる指導が不足していたのではないか。
- 漢字や語句の指導の充実が必要ではないか。

より良い授業にする

- 効果のあった指導を他の場面に応用する。
- これまでとは違う指導を考える。
- 指導形態，指導過程，教材・教具等の工夫をする。

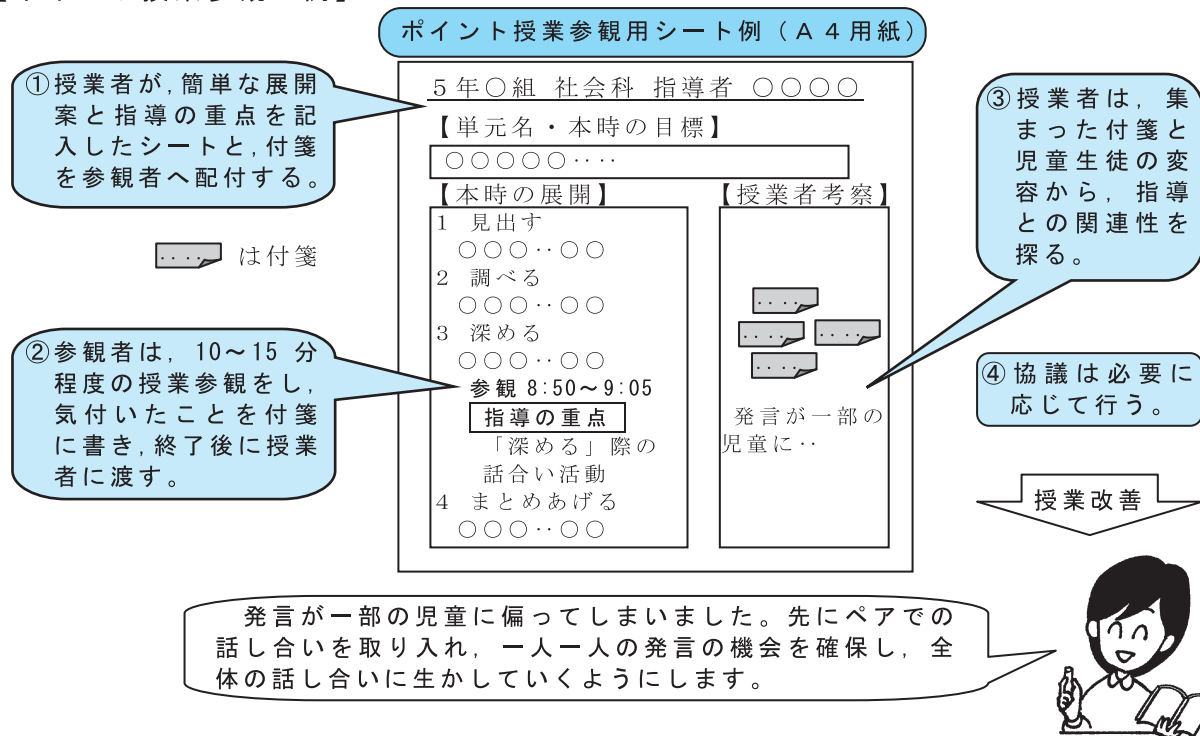
- 音読指導を継続する。
- 話型や文型を活用した発表や説明をさせる。
- 中心語句，中心文などを探す指導を充実する。
- 漢字や語句の繰り返し学習を工夫する。

(2) 協働で授業改善をしよう

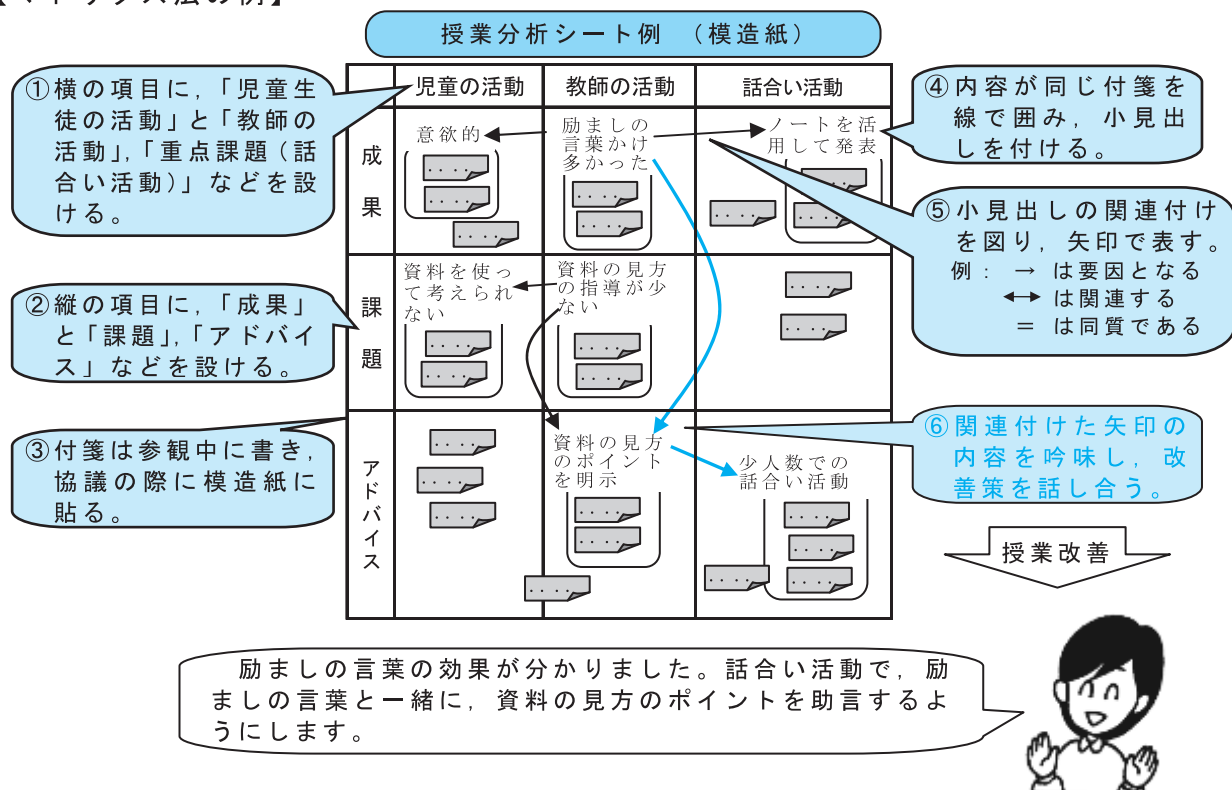
授業を互いに参観し、得た情報を共有することで、児童生徒の変容をより詳細にとらえ、授業改善に結び付けることができる。

例えば、「ポイント授業参観」は、授業の一部分における指導技術や指導の効果を考察することに適している。また、「マトリクス法」は、付箋に書かれた内容の関連性を探ることから、指導と評価の一体化につなげやすい。（「校内研究ガイドブック」P.11～13 参照）

【ポイント授業参観の例】



【マトリクス法の例】



(3) 意見や感想も考察に役立てよう

児童生徒や参観した保護者からの意見・感想を考察に役立てると、客観性が高まる。

【児童生徒へのアンケートの例】

※あてはまる()に○を入れましょう。	とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	ほとんど 思わない
① 授業はよく分かる。	()	()	()	()
② 授業を受けてもっと調べてみたくなった。	()	()	()	()
③ 先生の説明は分かりやすい。	()	()	()	()
④ 授業に対する意見や感想があったら書いてください。				

「授業の理解度」「意欲」「指導スキル」「意見・感想」など、必要な項目立てをして、具体的な設問を考えましょう。



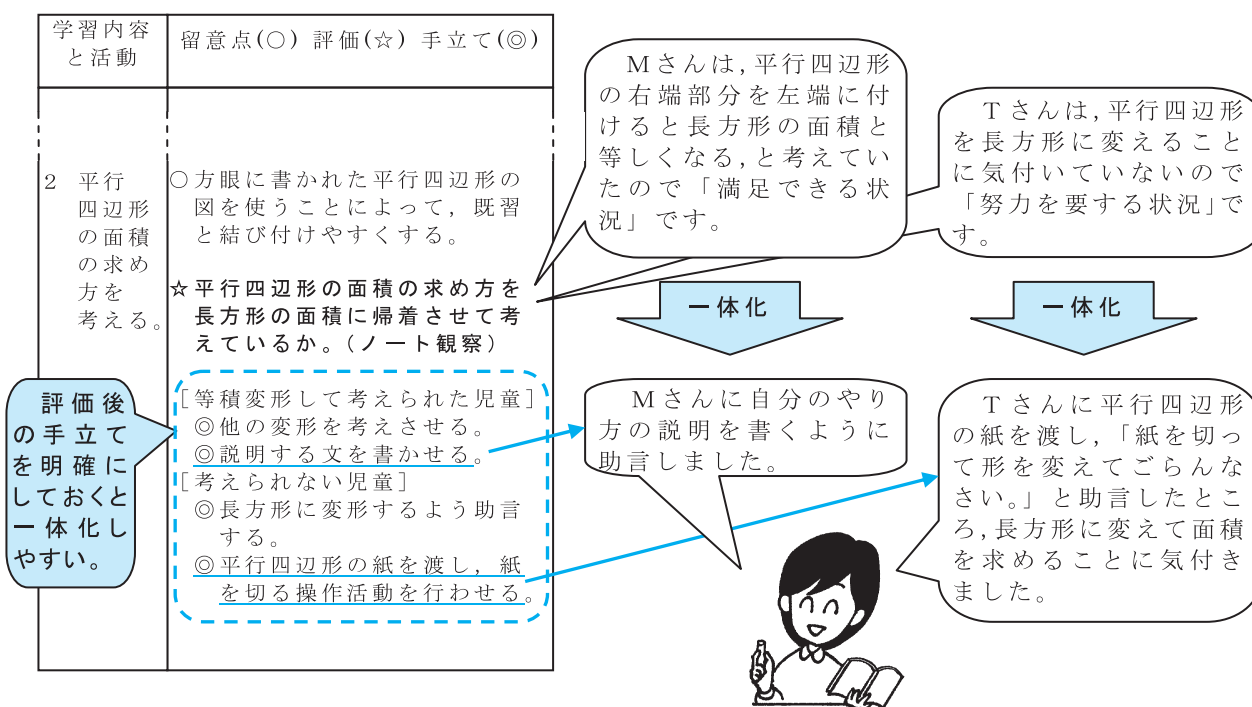
2 形成的評価で指導と評価の一体化を図ろう

授業改善には「指導と評価の一体化」が欠かせない。評価を即時に指導に反映させることが大切である。

【形成的評価を生かした指導と評価の一体化 例（小5 算数）】

本時のねらい

- ・平行四辺形の面積の求め方を既習の図形を基にして考えることができる。（数学的な考え方）
- ・平行四辺形の面積を既習の図形の求積と関連付けて求めようとする。（関心・意欲・態度）



3 全体を振り返ろう

日ごろから授業改善に努めていても、授業づくり全体の振り返りが不十分なために、成果が上がらない場合がある。授業力の4つの力すべてについて評価し、改善していくことが大切である。次ページの「授業力チェック表（例）」を活用し、授業力向上に努めていただきたい。

授 業 力 チ ェ ッ ク 表 (例)

項 目		番号	評 価 項 目	評 価			
				A	B	C	D
授 業 企 画 力	授 業 構 想	1	学習指導要領の目標や内容等を理解している。				
		2	児童生徒や学校の実態に即した授業構想となっている。				
		3	習得, 活用, 探究等を意識して, 指導計画を作成している。				
		4	系統性や目標の分析を指導計画に生かしている。				
		5	自校の重点課題を指導計画に位置付けている。				
		6	評価規準及び具体の評価規準(B基準)の作成ができる。				
		7	学習活動, 評価, 重点課題など総合的な関連を図った指導計画になっている。				
		8	目標達成のための手立てを明確にした指導案が書ける。				
	教 材 研 究	9	教科書から指導内容を読み取り, 授業の組立ができる。				
		10	教材化の意識をもって事象を見たり, 情報を収集したりしている。				
		11	ねらいや実態を踏まえて, 素材を教材化している。				
		12	地域との連携の視点で, 教材を見たり開発したりしている。				
授 業 展 開 力	授 業 環 境	13	自分自身の話し方を客観的にとらえ, 見直している。				
		14	話しやすい雰囲気や環境づくりを心がけている。				
		15	学習効果や学習意欲を高める教室掲示を工夫している。				
	授 業 構 成	16	個に応じた指導法や手立てを工夫している。				
		17	教えることと考えさせることをはっきりさせて学習指導をしている。				
		18	習得, 活用を図る学習過程(授業の3つの場)を工夫している。				
	授 業 ス キ ル	19	学習場面に応じた発問を考え, 使い分けている。				
		20	作業指示を含んだ発問をしている。				
		21	分かりやすい説明を工夫している。				
		22	構造的で効果的な板書をしている。				
		23	基本的な学習ルールをつくり, 定着させている。				
		24	指名を工夫して効果的な授業をしている。				
実 態 把 握 力	学 習 前	25	個々の学習意欲や興味関心を把握している。				
		26	これまでの学習状況を把握している。				
	学 習 中	27	具体の評価規準を基に達成状況を把握している。				
		28	児童生徒の反応や変容に気づき, フィードバックしている。				
	学 習 後	29	観点ごとに達成状況を把握している。				
		30	単元全体を通した児童生徒の変容を明らかにしている。				
授 業 改 善 力	授 業 分 析	31	指導の効果を他の教師や児童生徒等の評価から客観的にとらえている。				
		32	児童生徒の変容と指導の効果を関連付けて考察し, 授業改善に生かしている。				
	一 体 指 導 の と 一 体 評 価 の と	33	形成的評価を生かして指導と評価の一体化を図っている。				
		34	授業力の4つの力すべてについて振り返り, 授業改善に努めている。				

(A:大いにあてはまる ←————→ D:改善すべき)



みんなで取り組む **千葉の教育**

「授業づくりガイドブック ■授業力アップ■」

平成 22 年 3 月

発行：千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉 2-13

TEL 043-276-1166

FAX 043-272-5128

ホームページアドレス <http://www.ice.or.jp/~i-kaihatu/>